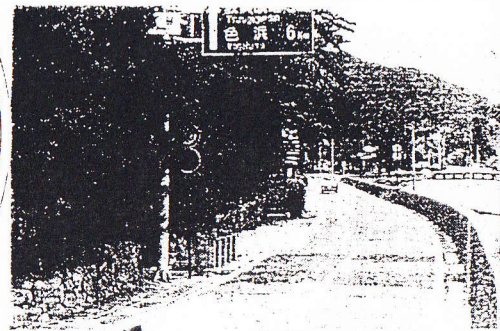
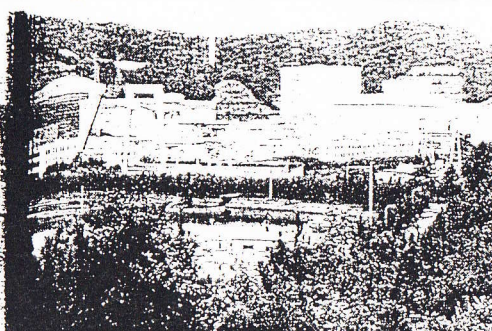




◀「庶民の道徳」が無意味なものにさえ思えてくる

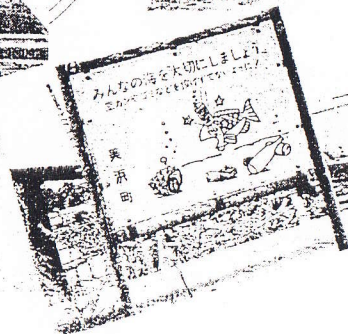


▲左から政賀1号機、2号機、そして「ふげん」

総勢9名の特別取材班は、海運の一軒家に本拠地を構え、本格的な調査活動に入るようになった。千部民のアンケートを車に積んで、集落を1軒1軒しらみつぶしに当たっていくのだ。多分、あなたの家に悪性リンパ腫や白血病に罹った人は、いますか？と……当然、予想されたごとく、ごく少数の……を除いて住民たちの反応は極めて冷淡なものだった。取材班の中に次第に動揺が広がっていった。

ルポライター／明石昇二郎・西村浩一＋名誌特別取材班

第2回「あなたの家にガンの人はいますか？」



▲大坂源兵衛の中興利御室

名の他、東京・高田馬場にある日本タナトナリで専門学校の学生たちとその周辺から逮捕された。この自称「暗黒院」なるは、教習所の西隣、東京・野田にある「海の家」で約二週間、合宿をし、自炊生活をしながら調査を行った。

先頭で書いたとおり、調査区域は日本原子力発電・教習所と原子力発電所の半徑10キロ圏内である。この中には原発がない。

を立てる小さな集落が海岸沿いに点在している。半島内を車でゆくところ、のどかな漁村の風景の中にかくも現れてくる原産はなんとと異様であり、邸宅育ちの我々にとって、あまりにも近すぎる原産と家々の「距離」が不思議なものに見えてならなかった。

「成功」とされる」（福井
　　「医学大第一内科・中村徹教授
　　」といふほどの難病である。つ
　　き回す、今回、我々が行なう質
　　問というのは、
　　「あなたの家にはガンで死んで
　　た（もしくは一死にそうなこ
　　と）人がいますか？」
　　と聞くのと大差はなかつた。
　　その結果、翌日からの調査

敦賀湾
原発銀座

憂鬱な調査項目

一 原免銀座の苦狭灣に面した福井県額^{額^南地^北}地方では白血
病や甲状腺ガンの発生が非常
に多い

んと7基もあり、日本原電の敦賀1号機（BWR、沸騰水型原子炉）と2号機（PWR、加圧水型原子炉）に始まって、関西電力の美浜1・2・3号（PWR、加圧水型原子炉）そして、動力炉・核燃料開発事業団（動燃）の「ちゅらハイパー」（FBR、高速増殖炉）、「げん一」（ATR、新型回転炉）と2基を数える。

「あんなの家には○○病に罹^{かか}った人がいますか？」
という英にシビアなもの。
しかも、その病名は白血病、
悪性リンパ腫、甲状腺がん……
などである。

▶恋人や家族連れがく
ろく海岸の向こうに

「悪性リンパ腫」
多発地帯の恐怖!



「教育原発」悪性リンパ腫「多発地帯の恐怖」

不安を隠せず、動揺をあらわにする班員が続出することにもなる。患者がいるということが事前にわかっていてた家に調査に行くと、その患者本また班員もいた。

地域ぐるみの取材拒否

調査を開始したのは8月23日だった。本日のことを話してもらえませんか、こち



これを救ふと寿命が延びるという観音さまの「運命大東水」

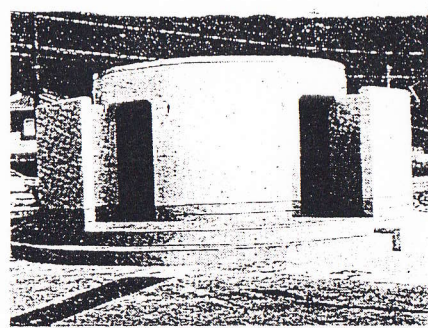
「誠意と熱意」が相手に通じることがかかっている。言い方を換えれば、取材班の「武器」となるものはこの「誠意と熱意」以外、なに

「この村でそんな病気が聞いたことない」といった調子。最初はそんなのだらうと素直に聞いていたのだが、あまりにも口を揃えて言われると、だんだん、なにか隠しているんじゃないか、と思うようになった。(N班員のレポートより)

露骨な居留守を使う家も多い。玄関の戸を開け、中を覗いてみるとテレビがついていて、いくら呼んでも誰も出てきてくれないのだ。あの班員などは、庭先にいる家

「原発現地の「今」」
「そんな病気が、ない、ない。今、忙しかから……」
「これが、この地域で一番多

*過去20年間の白血病による死亡者数(単位:人)
(「衛生統計年報」 福井県福祉保健課による)



丹生地区にあった原発型(?)の公衆トイレ

「ここは、すでに嫌そうな顔をしていて、このあたりで白血病とか甲狀腺ガンが多くなってきた

いるとの噂がありまして。」「なにもないです。なにも隠してないです」
いきなり「なにも隠してない」とは……。奥さんはそのまま部屋の中へと消えていった。(T班員のレポートより)

「別にこれは原発反対の運動で調査しているわけでもないし、たまたま関係の確認を行なっているだけなので、なにかお願いできないでしょうか。」
「でも、そういうデータが出れば、結局、反対」ということになるから……。(N班員のレポートより)

「私の民権とかも開電さんからは補償をもらっているけど、それは当たり前だと思います

敦賀湾原発銀座「年表」

1966年4月	日本原電・敦賀原発1号機、建設工事着工
1969年10月	日本原電・敦賀1号機、臨界
1970年3月	日本原電・敦賀1号機、営業運転開始
4月	動力炉・核燃料開発事業団「もんじゅ」、建設候補地として敦賀市白本地区を選定
11月	関西電力・美浜原発1号機、営業運転開始
1972年6月	関電・美浜1号機、蒸気発生器の細管事故で運休
7月	関電・美浜2号機、営業運転開始
12月	関電・美浜1号機、営業運転再開
1973年3月	関電・美浜1号機、燃料棒折断事故発生(関電は、この事実を76年末まで隠蔽)
1974年7月	関電・美浜1号機、蒸気発生器の細管事故で以後6年間運転停止
11月	関電・高浜原発1号機、営業運転開始
1975年11月	関電・高浜2号機、営業運転開始
1976年12月	関電・美浜3号機、営業運転開始
1978年3月	動燃「ふげん」、臨界
1979年3月	動燃「ふげん」、本格運転開始
3月	米・スリーマイル島原発、過去最大の冷却水漏洩事故
3月	関電・大飯原発1号機、営業運転開始
7月	関電・大飯1号機、我が国で初めて緊急炉心冷却装置(ECCS)が作動する事故発生
12月	関電・大飯2号機、営業運転開始
1980年5月	関電・高浜1号機、一次系でひび割れ発生。4月の定検中に発見されたのを翌公表
10月	関電・高浜1号機、緊急炉心冷却装置(ECCS)の空気抜き管バルブから一次冷却水漏洩
11月	関電・大飯1号機で完てん水漏れ
1981年4月	福井県衛生研究所、日本原電・敦賀原発前面海域のサンプルから異常放射能を検出
4月	日本原電・敦賀1号機、放射性廃液漏洩事故の発覚
5月	通産省、敦賀原発事故の報告書発表
8月	関電・大飯2号機、定検中、燃料被覆管に5つの穴
10月	関電・大飯1号機、蒸気発生器の細管26本に異常発見(さや管2本脱着)
1982年1月	日本原電・敦賀1号機、営業運転再開
2月	関電・高浜1号機、定検中、蒸気発生器の細管に損傷があることが判明。補修したことを翌に報告
4月	日本原電・敦賀2号機、建設工事着工
5月	動燃「もんじゅ」、開試了解
11月	関電・高浜1号機、定検中、漏洩燃料棒1本発見
11月	関電・大飯1号機、定検中、新たに蒸気発生器の細管72本に異常発見
1983年7月	関電・高浜2号機、定検中、湿分分離加熱器にひび割れ
1984年8月	関電・大飯2号機、原子炉格納容器内で放射能を含んだ一次冷却水漏洩
11月	関電・高浜原発、使用済み燃料輸送容器内で放射能漏洩
1985年1月	関電・高浜3号機、営業運転開始
6月	関電・高浜4号機、営業運転開始
10月	動燃「もんじゅ」、建設工事着工
1986年2月	英・セラフィールド再処理工場、放射能漏洩事故
4月	旧ソ連・チェルノブイリ原発4号機、史上最大の事故発生
5月	日本原電・敦賀2号機、臨界
1987年2月	日本原電・敦賀2号機、営業運転開始
1991年2月	関電・美浜2号機、蒸気発生器の細管破断事故発生
5月	動燃「もんじゅ」、総合機能試験開始
12月	関電・大飯3号機、営業運転開始
1993年2月	関電・大飯4号機、営業運転開始
1994年4月	動燃「もんじゅ」、臨界
10月	関電・美浜2号機、蒸気発生器の細管破断事故から3年8ヵ月ぶりに営業運転再開

「不自然である。我々が調査にやってくることを事前に知り、なんらかの「対策」を打った者でもないのだろうか。こんな、地域ぐるみの取材拒否、をするところが他にも数カ所あり、こういうところは後に複数回、通ってみることにした。

